Title:sinpou4768kai.eca Page:1 Date: 2013/03/04 Mon 10:52:35

教団新報

定 価 1部140円（本体133円〒共200円）
予約購読料 1年分 〒共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長崎哲夫
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし

東日本大震災2周年に際して

海外からの祈りに励まされて

木下宣世

〈聖書〉
詩編46編2～8節
神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。
わたしたちは決して恐れない
地が姿を変え
山々が揺らいで海の中に移るとも
海の水が騒ぎ、沸き返り
その高ぶるさまに山々が震えるとも。
大河とその流れは、神の都に喜びを与える
いと高き神のいます聖所に。
神はその中にいまし、都は揺らぐことがない。
夜明けとともに、神は助けをお与えになる。
すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。
神が御声を出されると、地は溶け去る。
万軍の主はわたしたちと共にいます。
ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

台湾基督長老教会によるボランティア。田畑のガラス片、陶片、木片等小さな瓦礫を取り除く。

戦慄

2011年3月11日午後2時46分、私は東京教区の三役教務打合わせ会に出席するために、教団ビル5階にエレベーターから降り立ったところでありました。突然、強い揺れを感じて立っていることができず壁に手を当てて揺れの収まるのを待つことしかできませんでした。どこかで鉄の扉が勢いよく閉まるような音が響きました。

しばらくして少し揺れが静まり、私は教区事務所のドアを開けて中に入りました。議長、書記そして事務所の主事や職員たちが緊張した面持ちで立っており、床には書類が散らばっていました。

「外に出よう」との議長の掛け声で私たちは階段を駆けおりて外に出ました。

早稲田奉仕園の中庭には既に多くの人々が集まっていました。その後も二・三回強い揺れが来たと思います。どれ位の時間が経ったでしょうか。ようやく揺れが収まったようなので皆で部屋に戻りました。

すると、お向かいの年金局の部屋から私たちを呼ぶ声が聞こえました。行ってみると小さなテレビの画面に異様な光景が映っていました。

大水が大地をなめるようにして次々と田畑、道路、建物などを飲み込んでいくのです。すぐに今の地震による津波だとわかりました。戦慄が体中を走り抜けました。

これは現実だろうか、このようなことがあってよいのだろうか、強い衝撃とともにそのような思いが脳裡をかすめました。

これがあの時の私の体験です。

激励

2011年4月4日、当時世界宣教委員長であった私は、甲東教会で行われる浅田容子先生の宣教師派遣式を行うため関西に向かう新幹線の車中におりました。

手にしていたのはそれより10日程前に教団世界宣教部職員から送られてきた震災に対する海外諸教会からの祈りや励ましのメッセージ集でした。

これを開いて読み始めた私は非常に驚き、読み進めていく内に感動し、胸が熱くなりました。世界の各地から寄せられた50通程のメールです。その日の内に届いているものも沢山あります。こんなにも多くの国々の教会から暖い励ましや心からの慰めの言葉が早々に送られてきたのです。

その中でも特に私の目にとまったのは韓国基督教長老会のベ・テジン総幹事からの文章でした。同総幹事は冒頭に掲げた詩編46編の御言葉を引用して励ましてくださったのです。

私は早速聖書を開いてこの箇所を読みました。

「海の水が騒ぎ、沸き返りその高ぶるさまに山々が震える」。何とあの日の津波の様を活写していることかと感じさせられました。

しかし神は「必ずそこにいまして助けてくださる。わたしたちは決して恐れない」。私は励まされました。また、自分の信仰を問われる思いが致しました。

連帯

2012年2月20日、私は他の委員の方々と共に台湾基督長老教会との協議会のために台湾に向け飛び立ちました。

この協議会は2年に一度、両国で交互に開かれるものですが、今回は東日本大震災の救援に取り組んでいる日本基督教団と2009年8月に起こった大洪水からの復興に尽力した台湾基督長老教会とが互いの経験を分かちあい、祈り励ましあうという趣旨で行われたものでした。

台湾基督長老教会の積極的で力強い取り組みに感心し、大いに学ばされました。

しかし、その台湾基督長老教会が自国の災害復興のために全力を傾注しつつ、さらに東日本大震災のために日本円にして8千万円もの献金を送ってくださったことを聞き、心を揺さぶられる思いがしました。日本の教会がかつてこれ程までに海外の教会に対して力を尽くしたことがあったでしょうか。

その後、昨年の夏には台湾から百名ものボランティアを派遣してくださったと伺っては、唯驚嘆するのみ、との思いです。

私たちの教団はこれ程までに諸外国の教会から祈られ、支えられているのです。このことを忘れてはならないと思います。

呼応

このような海外からの祈りや支援は私たちにとって大きなうながしではないでしょうか。彼らが被災地の人々や教会をおぼえてこれ程までに心を用いてくださっているとしたら、まして国内の私たちは彼らの祈りに触発されて、一層祈りと支援に励まなければならないと思います。

教団は10億円を目標に救援募金を行っています。この具体的な目標を達成するために皆で力を合わせたいものです。

東京教区は2011年5月に行われた教区総会で教区として5億円を目標に募金に励むことを決議しました。そのために教区の募金委員会を組織しました。現在、委員長のもと各支区に属する諸委員会が熱心かつ綿密な募金活動に取組んでいます。

私共の教会もこれに呼応して5年間で1千万円の目標を立てました。もちろんこれで十分とは思いませんが、ともかく教団全体の目標を達成するために協力を惜しんではならないと考えたからです。

海外諸教会からの連帯の祈りに動かされ、自分たちも全力を尽くして支援に励まねばと思う次第です。

（東京教区総会議長、西千葉教会牧師）

荒野の声

教区、教会総会に向けて伝道報告、伝道計画について話し合い、準備が始まっていることであろう。仕える教会では、教会の新年度準備と合わせ幼稚園の準備が始まっている。先日も新入園児の保護者会を行なった▼幼稚園の保護者会でも開会に礼拝を献げることを常としている。既に在園している子供たちの保護者は、今年度行われてきた保護者会の開会にて礼拝を経験してきている。だが、新入園の子供たちの保護者の中には、礼拝ははじめての経験で、皆が祈りに「アーメン」と声を合わせるのにもどぎまぎしてしまうという親もいる。今年もそう言った保護者がいたのかもしれない▼けれども、今年の保護者会では賛美の声がよく聞こえた。牧師、園長が一人、賛美の声を上げている、ということも珍しくない状況なのだが、今年は保護者たちの賛美の声がよく聞こえた。馴染み深い讃美歌だったこともあるかもしれない。また既に在園、卒園した弟妹さんの親も多かったこともあるかもしれないが。いずれにしても普段あまり礼拝に親しんでいない人々が賛美の声を高らかに上げることはうれしいことだ▼教会の裾野が、まだ見えないにしても、しかし、もっと広く、遠く、もっと深くにまで広がっていることを信じて、そこにこそ福音を運んでゆきたい。

Title:sinpou4768kai.eca Page:2 Date: 2013/03/04 Mon 10:53:03

東日本大震災2周年を前にして

中長期的救援事業を実施

教団総幹事
長崎哲夫

2011年3月、救援初動

東日本大震災から丸2年が過ぎようとしている。

日本基督教団東日本大震災救援対策本部（以下本部）は、この3・11に際して全教区・支区・地区・教会に「メモリアル・マンス」の集会を呼びかけ、被災教会と地域の救援とそのための募金を諸教会と共に一致して祈り、その手を些かも緩めず実施して行く。

顧みて、あの日の翌日3月12日には、教団は総幹事を委員長として「救援対策委員会」を立ち上げ、①教団議長を隊長とし、被災地の状況把握のため調査隊派遣。②社会委員会は国内募金開始。③HP・教団新報・後に対策本部ニュース等広報活動開始。④被災の奥羽・東北・関東3教区に初動活動資金各1千万円、見舞金50万円を送金。⑤現地との連絡を密にするため、世界宣教幹事を震災担当幹事に兼任させ、⑥救援対策本部専用事務室を設置。⑦少し遅れて被災教区と共働で仙台・石巻・遠野に救援活動拠点を設置した。

更に、臨時常任常議員会（3月22日）及び臨時常議員会（4月18日）をもって、「本部」を三役・常議員5名・キリスト教社会事業同盟1名・キリスト教学校関係者1名をもって設置、此処へ東京も含めた被災4教区総会議長も常時陪席し、本格的な救援体制を整えた。

ここで本部は、救援の主題を、「地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して」、①礼拝共同体の支援、②教会を通しての被災地域への支援。聖句を「わたしたちの助けは、天地を造られた主の御名にある」（詩編124・8）とし、2011年3月23日付「東日本大震災・戦後最大の日本の危機に立ち向かって－被災地域の教会と共に、命に仕える」議長声明を発表した。

「いしのまきっこ広場」（2012.12.28）、遊ぶ場所・時間を津波によって奪われてしまった子どもたちのためのプログラムを展開している。

救援募金の計画・実施

これにより、本部は先ず毎月「11246祈りの時」を教団全教会に呼びかけ、全教団の信徒運動として毎週百円・毎月4百円の献金をお願いした。それは、教団5万6240人の日曜礼拝者が毎月4百円を1年間献げると年2億6995万2000円となり、4年間では10億円を越すとの目論見によるものだった。

前後して、本部は本格的な被災状況調査のため同年6月被災教区、教会、地域に委員を派遣、「救援募金」を国内10億円うち5億円を会堂・牧師館の再建、5億円を教会の属する地域人道支援のためとし、「海外募金」を、12億円うち教団関係施設・学校・地域支援10億円、会堂・牧師館支援2億円として内外に募金を訴えた。

果たして、教団関係の海外教会からの敏感な援護と見舞いが頻繁に起こり、国内教会・学校・団体・個人の相当の人数がボランティアとなり、教区によっては連続した派遣の実績を積んで今日を迎えている。

救援活動の整理・推進

しかし、現地は語り尽くせない初動の混乱・試行錯誤・思いがけない人々の動き、期待、絶望等様々なものが行き交う場でもあった。

これに対応するため、本部はボランティア調整役1名を本部担当幹事のもとに採用し、尚且つ仙台・石巻各エマオには担当幹事補佐1名ずつを置いて、先ずドロカキから始められた作業、遠野では、被災者受け止めと寄り添い等尊い労力が集められて、所期の目的を果たして行った。

本部はこれらを経て、対策室長会議を設定し、被災初動の混乱の整理と日常的に具体的な課題や要望等取り上げるべき案件の整理と緊急性の高い事柄の決済を行なうこととした。

また、本部職員等「救援旅費規定」等を定め、多忙を究めた救援活動の途上、とかく渋滞がちだった会計処理を行い、救援ニュース等をもって明瞭な人道支援会計報告が出来た。

前後して、内外からの募金運動を通して、「全教団一致して救援に当たる」ことを願い、「被災教会」支援は、「教区」が受け止めて必要経費を算定し、これにより、本部は支援金と貸し出し金を支出するとした教会⇔教区⇔教団の一本化システムを創設した。

これは、震災1年の2012年3月をもって、「被災教会支援金配分規定」並びに「貸し出し制度」となり、支援金の配分は、専ら国内募金を当て、支援は一教会の会堂・牧師館再建総額の半額とし、残り半額は無利子で向こう20年返済で貸し出すものとして実施を開始し現在に至っている。

一方、海外募金は「人道支援」として、エマオ仙台・エマオ石巻、ハートフル遠野の3拠点のボランティア活動支援とクリスマス及び音楽会等の集会をはじめ、放射能汚染地域の子どもらのための保養プログラム「こひつじキャンプ」（これは今後、教区・教会でも是非協力いただきたい企画である）、アジア学院と福島県下2施設再建、被災地域牧師夫妻の健康診断（人間ドック）、東北大学の臨床宗教師育成を目的とする寄附講座参画、食品放射能測定器購入等に主として指定献金を当てた。

救援事業3年目を迎え

この間、本部は2011年8月、「現代日本の危機とキリスト教－東日本大震災を通して問われたこと」緊急シンポジウムの開催、2012年3月には、「福島第一原子力発電所事故に関する議長声明」が発信され、大災害に対する教団の姿勢を表明した。

大震災3年目を迎えようとしているいま、初動及び短期救援事業を顧みた。本部はこれをもとに中長期的な救援事業に入って行くに当たり、3月11日付「福島第一原子力発電所事故3年目を迎えるに際しての議長声明」を発表する準備を開始している。

「原子力神話に抗して－フクシマからの問いかけ－」。日時は2014年3月4日（火）～7日（金）。ただし東北学院大学の入試による変更の可能性がある。

会場は東北学院大学・土樋キャンパス大会議室。予算820万円。会議は基調講演、神学講演、分科会から構成される。基調講演の講師には差尚中氏（東京大学大学院教授・上尾合同教会員）が予定されている。

国際会議開催のために全国募金を呼びかけることが決定された。目標額は400万円。4月中にポスターと合わせて国際会議趣意書を発送し、各教区総会でも問安使がアピールすることとなった。

（加藤誠報）

▼救援対策本部会議▲

38総会期選出新委員により開催

1月31日、教団会議室にて、38総会期教団救援対策本部第2回（通算第19回）会議を開催した。

今回の会議は、38総会期第1回常議員会において選出された委員（石橋秀雄、伊藤瑞男、雲然俊美、大村栄、岡本知之、北紀吉、藤掛順一、佐久間文雄、稲松義人、嶋田順好）による最初の会議で、まず、石橋教団議長が本部長、伊藤教団副議長が副本部長、雲然教団書記が書記の任を担うことを確認した。

続いて、東日本大震災における教団の救援対策活動が初動から中長期的な活動へと移行したことを受けて、救援対策本部においては、被災教会からの会堂・牧師館再建復興支援申請などの、救援対策活動における重要事項を扱うことを確認した。

また、救援対策室においては、継続中の活動（仙台エマオ、石巻エマオ、ハートフル遠野）の状況を把握し、活動を推進すること、国内募金活動の展開と海外の教会への献金呼びかけを推進すること、震災に伴う原発事故・放射能汚染問題の対応の窓口となること等を確認し、救援対策室の委員を選任した。

その後、1月31日現在の国内募金総額が4億7766万9083円、海外からの献金が2億3379万5283円となっていることが報告されたほか、救援対策室からの報告、および、被災教区からの報告がなされた。

また、来年3月に仙台において開催することを計画している東日本大震災国際会議について、同実行委員会からの報告がなされた。

審議事項においては、救援対策室から来年度の救援対策活動の計画と予算案、震災2周年メモリアル・マンス関連事項等が提示され、協議の後、今後さらに同対策室において検討することとした。

また、会堂・牧師館再建復興支援として、東北教区の5教会（角田、川俣、いずみ愛泉、三春、磐城）への支援（合計423万7千円）と貸付（支援と同額）、および関東教区の足利東教会への支援（28万7千円）を決定した。

そのほか、台湾基督長老教会との確認事項（共同声明、神学宣言の発表等）の検討等を扱った。

次回会議は、3月19日、教団会議室にて開催する。

（雲然俊美報）

▼東日本大震災国際会議実行委員会▲

実行委員長に伊藤瑞男氏を選出

第38総会期第1回常議員会の議決を受け、1月29日、教団会議室において委員6名中5名の出席を得て、東日本国際会議第1回実行委員会が開催された。

招集者である岡本知之委員により、入念に準備された資料に基づき国際会議への理解を深めた後に組織に入った。

国際会議全体を統括する実行委員会の委員長には伊藤瑞男教団副議長を、副委員長には岡本委員を選任した。実行委員会の下に会議準備のために以下の5つの会議準備委員会を設けた。財務・募金委員会の委員長に北紀吉委員、事務局担当者に計良祐時幹事。広報・接遇委員会の委員長に長崎哲夫総務幹事。展示・総務委員会の委員長に岡本副委員長をそれぞれ選任した。会場を提供してもらう東北学院大学との連絡は、同大学理事である高橋委員が担当することとなった。

組織の後、国際会議の主題等を再確認した。国際会議の名称は「東日本大震災国際会議」である。主題は登録委員会の委員長に秋山徹委員、事務局担当者に加藤誠幹事。プログラム・会場委員会の委員長に藤掛順一委員、副委員長に高橋和人委員、事務局担当者に飯島信幹事。宿泊旅行・行事

Title:sinpou4768kai.eca Page:3 Date: 2013/03/04 Mon 10:53:27

被災者のために祈り、寄り添う

日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオの働き

上:「石巻仮設」(2013.1.13)
仮設に住む方たちに、手仕事を通して、少しでも生きる喜びをと願い。
下:「仙台・七郷ワーク」(2012.10.12)
畑にはまだまだ細い瓦礫が残っている。農業再開のために、それを取り除く。

祈りと寄り添い

日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオでは、震災直後の2011年3月15日から今日まで働きを繋いで来ています。それはただ単に支援活動を繋いで来たのではありません。何よりも「祈り」、そして「寄り添う働き」を繋いできました。

この「寄り添う働き」を私たちは「スローワーク」という言葉で表現しています。ゆっくり時間をかけて、丁寧に被災された方たちに寄り添っていく働きです。例えば、お宅の方から望まれれば、目の前の作業を中断してでも一緒にお茶をしています。お話に耳を傾け、また求められればこちらからもお話をすることを通して、少しずつ出会いが生まれていきます。「目に見える成果」ももちろん大切ですが、それよりも「目には見えないもの」を私たちは大切にしています。

エマオが信頼関係を築いてきた結果、はじめて参加したワーカーに対しても、お宅の方たちは心を開き、受け入れて下さっています。私たちは「希望」を届けに行く働きをしていると思いますが、むしろ「希望」を与えられて被災地からエマオに帰って来ることも多いのです。

このように、何よりもワーカーに深い「出会い」が与えられていることが、エマオの特徴ではないでしょうか。

海外からのボランティア

海外から来て下さった、多くのワーカーにとっても同様です。海外から来ているからと言って、ワーク内容を変えることはしていません。他の国内ボランティアと同様に、被災されたお宅に行き、ワークをし、出会い、そして帰って来るのです。

何人もの海外ボランティアが、出会いを振り返って、最後の挨拶の時に涙を流しました。

私たちはとても不思議に感じています。「なぜ海外からわざわざ仙台や石巻まで来て下さるのか?」と。私たちだけではありません。ワークに入っている被災された方たちも、わざわざ海外から来てくれたワーカーに対して、驚きと感謝の思いを抱かれています。言葉が通じなくても、いやむしろ通じないからこそ、その姿から伝わるものがあります。それは、「目には見えないもの」=「祈り・愛・希望」です。今までに、沢山来て下さった海外ワーカーから学んだことです。

台湾基督長老教会(PCT)の働き

2012年夏には、台湾基督長老教会(PCT)が、97名ものボランティアを2ヶ月にわたって送って下さいました。

その人数にも、熱意にも圧倒されました。なかなか人手が足りずに進んでいなかった、広い田畑からの細い瓦礫除去作業もとてもはかどりました。農家出身の台湾ボランティアは農作業において大活躍でした。日本の農家では高齢化のために、農業が出来る青年はとても少ないのが現状です。そんな中で、台湾から来た彼らの働きは抜きん出ていました。また最後のチームでは、大工の方たちが10名来て下さり、まだまだ家の補修作業が必要なお宅に行ってワークをして下さいました。

私たちが普段することが出来ないワークを担って下さり、被災された方たちもとても喜ばれていました。

もちろん、97名ものボランティアを受け入れることは大変でした。言葉が通じないことから来る、ハプニングも沢山ありました。しかし、それにもまさる大きな恵みだったことも間違いありません。

震災から2年

震災から2年を迎えるいま、被災地の現実はむしろ厳しさを増しています。

仮設に住む30万人以上の方たちすべてが「自分の家」に帰ることが出来るまでには、気が遠くなるほどの時間が必要です。津波で深刻な被害を受けた田畑が、そして〈いのち〉が回復するのにはさらに多くの「時間」と「寄り添い」が必要です。

エマオを取り巻く環境も決して甘くはありません。日本社会がどんどんと被災地を忘れていっている中で、私たちが出来る最善の業が求められています。被災者支援も緊急支援から中長期支援へと移り、エマオのワーク内容も少しずつ変えていくことが求められています。スタッフが疲労を溜め、時に裁き合ってしまう中で、時間をかけて関係性を造り上げていくことが求められています。

しかし、被災されている方たちの心からの笑顔や、津波で家を流された子どもたちが元気に遊び回っている姿を見る時、復活の主イエスが被災された方たちと共にいて下さっていることに気付かされます。厳しい現実だからこそ、私たちキリスト者は、神さまの愛に押し出されて、これからも「祈り」と「寄り添い」を繋げていきたいと願います。

どうぞこれからも、祈りに覚え続けていただければと切に願います。

(佐藤真史報/教団東北教区被災者支援センター・エマオ派遣専従者)

消息

森トミ子氏(隠退教師)
12年12年11日逝去、93歳。山口県に生まれる。'73年日本聖書神学校を卒業。同年名瀬教会に赴任、'85年より00年まで徳之島伝道所を牧会し、隠退した。遺族は息・森孝さん。

荒井俊次氏(隠退教師)
13年1月16日逝去、80歳。東京都に生まれる。'58年タフツ大学大学院神学部、'60年ハートフォード大学大学院神学部を修了。アジアキリスト教協議会(CCA・シンガポール、香港)、日本クリスチャンアカデミー、世界教会協議会(WCC・スイス)を経て、再び日本クリスチャンアカデミーに02年まで勤め、隠退した。遺族は妻・荒井明子さん。

お詫び・訂正
新報4767号、消息欄「入江清弘氏」文中、「福岡上東橋教会」を「福岡城東橋教会」に、お詫びして訂正いたします。

東京神学大学 〒181-0015 三鷹市大沢3-10-30

第14回 キリスト教学校伝道協議会

◎日 時 2013年5月25日(土)
登録・受付 9:30〜10:00
協 議 会 10:05〜16:35
◎会 場 東京神学大学
◎主 題 「キリスト教科目の教科力アップ」
◎対 象 教務教師
◎会 費 3,000円(当日持参)
◎問い合わせ 東京神学大学内キリスト教学校伝道協議会運営委員会事務局
URL http://www.tuts.ac.jp
(参加申込書PDFをダウンロードできます。申込締切:4月12日)
TEL0422-32-4185
FAX0422-33-0667

「教員免許状更新講習」受講希望の方々へ

教員免許更新制度が2009年度から導入されました。今回のキリスト教学校伝道協議会のプログラムには、6時間の更新講習が組み込まれています。

受講希望者が「キリスト教学校伝道協議会」とその前後に開講される「講習クラス」を合わせて受講しますと「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」についての更新講習6時間分を受講したことになります。

日本基督教団 伝道推進室
《発足記念大会》

◆日時 2013年3月31日(日)
18:00〜21:00
◆場所 日本基督教団 **銀座教会**

《説教》「夜明けの岸辺」
小島誠志先生
(元教団議長、久万教会牧師)
《奉唱》東京神学大学コーラス部
《講演》「救われた命を伝道のために」
近藤勝彦先生
(東京神学大学学長)

共に祈り、支えよう!
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に**「東日本大震災救援募金」**にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目標額 10億円(国内のみ)
期 間 2011年7月1日〜2015年3月31日
振替番号 00110−6−639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

《2月25日現在 募金総額》
国内募金総額 4億9324万7918円
海外からの献金総額 2億3379万5283円

2013年3月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

宣教師からの声　番外編

一粒の麦として

－辺境の地に女子教育の種を蒔き、育てた宣教師たち－

木村いくみ（学校法人北星学園企画課）

写真右／創設者スミス女史。
写真左／スミスを挟んでモンク（左）、エヴァンズ（右）各女史。

北星学園は Sarah C.Smith が創設し教育の基盤を築き、後継者 Alice M.Monk の学校改革により発展をみた。さらに、Elizabeth M.Evans が戦後の新体制を牽引し、今日の北星学園が導かれた。3 人の宣教師は自らのすべてを北星学園のために注いだ宣教師として、本学園の記憶に留められる。

Sarah C.Smith

北星学園は、東京以北最大の都市と呼ばれる北海道札幌市にある。Sarah C.Smith は 1880 年に東京に赴任したが、来日 3 年後に気候が合わず病にかかり、故郷によく似た気候の札幌に転地した。数ヵ月後に健康を回復したスミスは、そのまま札幌で宣教活動を続けることを決意し、伝道協会に決意と学校設立についての理解と協力を求めたが、当時の札幌は開拓途上にあり、低文化の女子教育後進地であったため、伝道協会はこの事業を「実現不可能」と判断し活動を許可しなかった。それゆえスミスは、止むを得ず北海道の先進地であった函館に留まり、宣教活動の傍ら機会を待った。

1886 年 12 月、北海道尋常師範学校の英語教師に招聘されたのをチャンスと見て札幌に移転し、地元の有力な官・財・学界人の支持を得て、伝道協会の許可を得ないまま 1887 年に女学校を開学した。このため、伝道協会からの開学資金援助を得られず、開学後の約 2 年間は全く彼女個人の事業であった。しかしその後、伝道協会はスミスの固い決心を認め、1888 年 8 月、校舎増築のための資金援助をした。また、1889 年にスミスは一時帰国し、伝道協会の理解を得て漸く学校の運営資金を得ることに成功したのである。

1894 年、スミス女学校は「北星女学校」と改名した。“Shine like stars in a dark world”「世にあって星のように輝く」（聖句：フィリピの信徒への手紙 2・15）が、「北星」の由来である。

スミスは女学校の創業と教育実践を通して、自らは欠乏に耐えつつなお人に奉仕する生き方を生徒に示し、生活をともにする人格的交わりを通して生徒に圧倒的な感化を与えた。「実現不可能」との予測を覆し、様々な困難にも屈せず、学校の基礎を固めたのである。

スミスは、1931 年、80 歳のとき、辺境の地で女子教育に先鞭をつけ、キリスト教の宣教と地域文化、教養、道徳の向上に労した 50 年間の歩みに終止符を打ち、帰国した。帰国にあたり、日本最後の礼拝の席上で読み上げた聖句「キリストさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかった」（ローマ人への手紙 15・3）に、スミスの生き方の全てが凝縮されている。

Alice M.Monk

開校後約 20 年近い労苦を重ねたスミスは、宣教師の不足に悩み、信頼に足るべき後継者を望んでいた。1905 年 11 月人望も極めて厚い教育者アリス・M・モンクが、東京の女子学院の引き止め運動にも係らず、条件の悪い北星女学校に着任したのは、来日 1 年後、33 歳のときであった。着任後、モンクは、一層教育内容を整備し学校形態を拡充することに努めた。1915 年に校長に就任し、懸案となっていた北星女学校の文部省認可の取得、1924 年に新校地を確保した。1926 年に寄宿舎、宣教師館を竣工し、1929 年には木造 3 階建てのモダンな新校舎を竣工した。現在、校地は北星学園女子中学高等学校に受け継がれ、1989 年に開学 100 周年を記念し復元された宣教師館は、1998 年に国の「登録有形文化財」に指定されている。

モンクは、残る生涯の全てを「北星」に献げるべく、札幌に永眠の場所を定めていた。しかし時代は、モンクの思いを打ち砕き、1941 年 8 月 15 日に、モンクをはじめアメリカ人教師たちは帰国勧告を受け札幌を離れた。母国にたどり着いたモンクは、そのまま倒れて長い病床生活の後、1952 年ワシントンで天に召され、再び札幌に戻ることはなかった。

Elizabeth M.Evans

エリザベス M. エヴァンズは 1911 年 10 月、25 歳のとき、北星女学校に教師として着任した。モンクに遅れること 6 年後の着任であったが、スミスとモンクという輝かしい先駆者の中にあって、エヴァンズの功績は目立たない。しかし、エヴァンズが着任した頃、スミスの体調は思わしくなく、学校の管理はモンクに委ねられており、スミスの教育精神を受け継いで生徒への直接的な指導を助けたのはエヴァンズであった。

1941 年、全ての宣教師がアメリカ本国に帰国する約 2 ヶ月前に一時休暇を取得してエヴァンズは帰国していたが、そのまま留まらざるを得なかった。1945 年に終戦を迎え、再出発を期していた学校は、1946 年に財団法人北星学園として改めて始動するものの、北星女学校は宣教師のいないミッションスクールになっていた。北星学園は、アメリカに帰国した 6 名の宣教師たちに復職を要請していたが、1947 年に要請に応えたエヴァンズが帰ってきた。エヴァンズの重要な役目は戦争によって途切れたが、スミス、モンクの教育の精神と伝統を再現することによって、ミッションスクールとしての断絶を埋めたのである。

戦後の学校再建に寄与したエヴァンズは、女子短期大学開学に尽力し、初代学長となったが、就任して6ヶ月後の 1951 年9月に定年を迎えて帰国する。

1972 年 2 月にミネアポリスで 86 歳の生涯を閉じたが、エヴァンズの財産は彼女の遺言によって、3 分の 1 が北星学園に献金された。北星学園に献金された遺産は、スミス・モンク・エヴァンズ奨学金の基金となり、現在も生徒のために用いられている。

人 ひととき

柏木　牧子さん

このわたしにもできること

イラストレーター、青山町教会員。盛岡市のキリスト教書店・善隣館にて著作とカレンダーを手に。

教会のカット集としてはCD－ROM付で評判になった『教会の暦と行事カット集』を描き、教会学校教案誌『教師の友』についてくる「教師の友カード」のイラストを担当しているのが、柏木牧子さんだ。

昨年、東日本震災復興のための「子どもの12か月」カレンダーを作成した。

岩手県盛岡市で暮らす柏木さんは、申し訳ないという思いを抱いていた。震災発生時には盛岡におらず、あの揺れを経験していないこと。同じ地に暮らす人々と、一番大変だった時を共にできなかったことから、そう思わざるをえなかった。

後に盛岡市での救援物資仕分け作業のボランティアにはできる限り関わった。また津波の被害が甚大であった地にも足を運んだ。けれども広大な東北の地域において、盛岡から沿岸部に移動だけで数時間かかり、十分な働きもできず、重ねて申し訳ないという思いが付きまとっていた。

復興のために、このわたしにもできることを願いつつ、イラストを用いて何かできないかと模索していた。ただ自分一人の力では道が拓けなかったのだが、教団出版局の知人に依頼したところ、今回のカレンダーの企画が動き始めたのだ。本当に自分はイラストを描くだけであったが、協力者たちがレイアウト、印刷、発送、会計業務などを担ってくれた。結果、350部の売り上げがあり、そこから経費を引いても百万円をゆうに超える金額を教区や教団の震災関係献金にささげることができた。

カレンダーのイラストには、あたたかさを伝えたくて、子どもとどうぶつたちが仲良く遊んでいる姿を描いた。保育の仕事にも携わっていたことがあり、また、牧師の家庭で育った者として、自分をとりまいていた世界を描いた。

カレンダーを使う人の顔にも、イラストと同じ笑顔が浮かぶことを願っている。

各委員会活動のための祈りを

昨年末に開催された38総会期第1回常議員会において、今総会期の常設委員会（宣教、教師、信仰職制、教師検定、予算決算、世界宣教）、および常設専門委員会（伝道、教育、社会）等の各委員を選任しました。

その際、各委員会の委員の選考委員会においては、これまで委員選考にあたって考慮してきた事項（継続性を考慮する、常議員は選出しないなど）を確認した上で、前総会期と同様に、「伝道に熱く燃える教団形成のために祈りと力を合わせる方、教憲教規を守る方」を委員候補者として選出したことが報告され、承認されました。

その後、各委員にその旨が通知され、新しい委員による委員会組織と活動が始まっております。言うまでもなく、教団の具体的な諸活動は、これらの委員会において審議され、進められます。

私自身かつて委員をさせていただくことによって、全体教会としての日本基督教団の多様で豊かな働きを知ることができた経験があります。これまで委員であった方も、また、この度新たに委員として加わられた方も、日程の調整等のご苦労はあることと思いますが、教団の宣教の進展のために、ぜひ力を合わせていただきたいと思います。

教団の「総会議事規則」第1条には、「会議および委員会は祈祷をもって開閉される」とあります。当然のことですが、委員の方々には、祈りつつ労されますように。また、各教会におかれましては、ぜひ各委員会の働きを覚えてお祈りくださいますようお願いいたします。

（教団総会書記　雲然俊美）